

コロナ禍における台風災害対策の意見交換会

日時：令和2年8月30日（日）13:30～15:30

LIVE
インターネット
中継配信

会場：館山市コミュニティセンター第一集会室
※ 参加者は構成団体会員・事前登録制（限定40名）

令和元年房総半島台風でこれまでにない大被害を受けた安房地域。さらに追い打ちをかけるように、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的蔓延）という未曾有の災難に見舞われ、自粛生活を余儀なくされています。

このような状況下で、再び台風シーズンを迎えるにあたり、私たちはどのようなことに気をつけながら災害に備え、危機を乗り越えていったらいいのでしょうか。

日ごろより、市民の安全に尽力してくださっている館山市総合政策部社会安全課危機管理室の方よりその留意点や対策についてお話して頂き、私たちの疑問や不安あるいは要望などについて意見交換し、共に命を守り、安全な街づくりについて考え合いたいと思います。

3密を避け安全を確保するために、会場へは構成団体会員の予約制とし、そのほかの皆様には、インターネットを通じて同時中継または後日の録画配信にてご視聴いただけるように準備を整えています。ぜひご覧ください。



* **LIVE 中継の視聴方法** <https://www.facebook.com/awa.hahaoyataikai>

- ・ Facebook「安房地域母親大会」のページから同時刻にどなたでもご覧になれます。
（ネット環境の不都合で視聴できない場合はご容赦ください。後日 YouTube 録画でご覧ください）

* **YouTube の視聴方法** 準備中につき Facebook で告知します。

- ・ 「安房地域母親大会」動画検索でタイトルを選べば、誰でもいつでも視聴できます。

* **会場参加について**

- ・ 各所属団体を通じて事前に参加予約を受け付けます。
- ・ 当日は各自体温を測り、体調不良の場合は欠席としてください。
- ・ 参加の場合はマスク着用とし、熱中症対策のため飲料水を持参ください。
- ・ 入館の際、会場ロビーに備え付けの薬で手指の消毒をしてください。

主催：新日本婦人の会館山支部

共催：第26回安房地域母親大会実行委員会

構成団体：国連 NGO 新日本婦人の会館山支部

国連 NGO 新日本婦人の会鴨川支部

国連 NGO 新日本婦人の会鋸南やまゆり班

連協安房地域女性連絡会、全日本年金者組合安房支部

NPO 法人安房文化遺産フォーラム

問合せ：関恵美子（090-5762-5956） 池田恵美子（090-6479-3498）



プ ロ グ ラ ム

2020年8月30日（日）



◆タイムスケジュール◆

- 13 : 30 開会
- 13 : 35 開催趣旨
- 13 : 40 館山市総合政策部社会安全課危機管理室
 - ・担当者紹介
 - ・コロナ禍における台風災害対策説明
- 14 : 00 意見交換会
- 15 : 25 閉会挨拶

◆開催趣旨◆

主催者として一言ご挨拶申し上げます。新日本婦人の会は、平塚らいてうなどを呼びかけ人に設立されて、58年の歴史があります。核兵器廃絶運動に貢献したとして国連に認証されたNGO（非政府組織）です。昨年未曾有の台風被害にあい、館山支部では記録に残そうと会員のアンケート調査を実施しました。内容は、①自分でできること（自助）②会員や近所で協力できること（共助）③行政に求めること（公助）に分類されました。

このことは今年26回目を迎える安房地域母親大会の思いとも一致することから、共同開催の運びとなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多人数の集会が出来ないことから、インターネット配信を行うこととしました。

館山市総合政策部社会安全課危機管理室の皆さんには、市民と行政の協働課題としての意見交換会をお願いしたところ、お忙しいなかご協力を頂くことが出来ました。

台風シーズンが迫っています。コロナ禍における避難所運営など、市民と行政が課題を共有して準備をすることが大事と思います。今日の意見交換会が実りあるものになりますように祈念しまして、挨拶といたします。

主 催 : 新日本婦人の会館山支部

共 催 : 第26回安房地域母親大会実行委員会

コロナ禍における台風災害対策について

- 1 令和元年房総半島台風（台風15号）における館山市の被害状況
 - ・ 9月9日午前3時ごろ最接近、最大瞬間風速 48.8m/秒（時速約 175km）
 - ・ 罹災証明発行数（住家）：全壊：101 大半：235 半壊：1386 一損：4867 計 6589 件
 - ・ 死者1名（関連死）、軽傷1名（避難中の転倒）
 - ・ 市内全域長期間停電：24,700軒（復旧まで16日間）
 - ・ 断水（約200軒）、通信障害（電話基地局被災）、通行止め多数（市道4040号線）

- 2 令和元年東日本台風（台風19号）での避難状況
 - ・ 市災害対策本部の準備：避難所備蓄品の確認、衛星電話（3台）・発電機（40台）借受
 - ・ 10月11日15時「避難準備・高齢者等避難開始」発令（西岬、富崎地区避難支援）
 - ・ 12日10時5分「避難勧告」発令（避難所12か所）
 - ・ 12日19時ごろ台風中心が伊豆半島通過
 - ・ 12日21時 避難者最大1174世帯2332名収容（避難所17か所に拡大）
65歳以上1129名（48%）、要介護者11名、ペット22匹

- 3 今季の避難所運営方針について
 - ・ 新型コロナウイルス感染症対策＝公民館→体育館（11か所、最大1124名収容）
 - ・ 「3密」対策、感染予防（マニュアル改訂、避難所職員訓練、資機材搬入）
 - ・ 住民参加の避難所運営

- 4 今後の取り組むべき課題
 - ・ 防災情報の迅速確実な伝達（防災無線、メール、電話、SNS）
 - ・ 「公助」と「共助」の連携（町内会、自主防災会）
 - ・ 防災能力・意識の高揚（防災訓練、防災講話）
 - ・ 他自治体、企業・事業所との協定拡大（東京都中野区、東京電力）

館山市社会安全課と市民の

コロナ禍における台風災害対策の意見交換会資料（アンケート）

2020年 8月30日

新日本婦人の会館山支部

私たちは昨年の9月から10月にかけて未曾有の自然災害にあい、その経験を記録するためにアンケート調査を実施しました。その中で今後館山市並びに南房総市に安心して住み続けるための要望を抽出して、原文のままとりまとめたものです。

ともに考え改善していただく課題としてお答えくださるようお願いいたします。

1、情報の速やかな伝達

- ・防災無線が聞き取れない。
- ・防災機能の見直し ・館山市安心安全メールの配信、周知
- ・ブルーシート等支援物資の配布方法の改善、車の無い人、高齢者家庭は大変。
- ・非常時に使える公衆電話の確保と衆知をお願いしたい。
- ・館山での被害状況、罹災後の一連の手続き、支援内容の情報提供が遅すぎる。

広報でもっと早く知らせるべき。他市は速やかに知らせている。

- ・罹災証明発効後の手続きが混雑し、大変だった、私は3日通った。何か対応策をとるべき。
- 何もかも時間がかかり台風に振り回されて疲れた。
- ・市役所の電話が通じてよかった。
 - ・スーパー、コンビニの開店情報が市から連絡があり助かりました。

2、町内防災組織機能せず

- ・情報発信の仕方および実態の把握。
 - ・近所の人との会話・情報が心強かったが、町内会の取り組みはなかった。
- （ごみ置き場・収集は町内会で決めて行っていたようではあるが）
- ・市の安心メールに登録していないので市の情報は無線のみ、聞き取りにくく毎日聞き耳を立てるのに非常に疲れた。
 - ・伝達等町内会を通してお願いしたい。1人暮らしなので今回のような状態だと誰からの安否確

認がないので孤独死していても分からないと思った。

3、一方民生委員、社会福祉相談員・消防団員の訪問があり助かった。

- ・翌々日、民生員が訪ねてくれたが、町会としては何も機能していなかった。
- ・消防団員が小まめに地区をまわってくれたことは心強かった。
- ・デイサービス（東雲）で大変お世話になりました。
- ・住民ひとりひとりの立場に立ってその痛みを分かってほしい。まさか電気が3日もとまることがあるなんて予想できませんでした。災害の殆ど無い房州もこれから気候変動で毎年台風に見舞われることになると思うと、これから心準備しなければとは思いますが、電気が止まったら個人は実際のところお手上げなので、行政の対応をお願いしたい。
- ・連携をとって住民に対応してほしい。

対策本部は事前に想定して体制を取り任務を明らかにしてほしい。

- ・ブルーシート張りで屋根から落ちて亡くなったり、ケガをした人が多かった。ブルーシートを配るだけでなく張る援助もお願いしたい。すぐ雨だったので自衛隊も早く対応して欲しかった。

（ボランティアの申請の仕方が分からない）

4、災害ゴミ置き場指示

- ・情報を早く正確に出してほしい（例:19号のごみは個人の持ち込みは10月27日まで、市にお願いする場合は…といわれ、慌てて市に電話しお願いした所、回収は1000軒あり年明けにと言われた。破損瓦が土嚢袋100個以上あり置く場所にも困ったので少しでも減らしたいと人を頼んで軽自動車4回運んだら、その翌日回収に行くといわれ、がっくり。

5、避難所

- ・避難所の整備（トイレが古くて汚い。暑かったので冷房の設置・台風情報を知るためのテレビも欲しい）。トイレは早急にきれいにしてほしい。
- ・食料・寝袋等すべてを持参しての避難指示だったが、もっと身軽に避難できるようにしてほしい。
- ・歩いていけない人のために車をだしてほしい。今後、台風襲来時は避難所に行く人が増えると思われるので、避難所の新設・備品について検討してほしい。

- ・1戸当たりの長期間避難所にいなければならない場合、今回は菜の花ホールであったが避難所としては不適。仮設住宅の設置または住宅の借り上げ等をしてほしい。なぜ菜の花ホールなのか、市営住宅はなかったのか、市の見解を聞きたい。

- ・避難所に発電機能を備えてもらいたい（ソーラー設備、自家発電）

6、東電に要望してほしいこと

- ・ライフラインの要と再確認しました。停電が長引き、生活困難が増すばかりなのに、情報が全くない状況でした。一企業の問題にはできない、国、県の対応も問題にすべきです。・学校・病院・公民館等部落の中心になるようなところは一刻も早く停電解除をお願いした。今回、東電から停電の説明は全くなかったが、2回も3回も停電した理由も東電に聞きたい。

- ・民間の事業者との連携、協定。

7、市（館山・南房総）に望むこと

- ・被災者への支援物資の調達、情報の知らせ方、消防や市職員、福祉協議会、区長組織、民生委員、避難所の貧しさ、避難の仕方の身近な支援とともに地方自治体が負うべき生命の危機に対して迅速かつ丁寧な対策を、根本から見直してほしいという要望が寄せられました。

- ・他所から炊き出しボランティアが来てくれたが、今回、ガス・水道が使えたので食事困難者はいなかったと思う。また、買い物カーも運行されたが買い物難民も少なかったところもある。せっかくの善意が生かされなかったので、実際に必要な援助・支援をお願いしたい。

- ・個人や団体から市が災害見舞金をいただいたが、どのようなところに使うのか教えてほしい。

- ・避難所の設備等有効に使ってほしい。

8、千葉県に望むこと

- ・初動捜査の遅れや粗雑さから、発電機、発電自動車、自衛隊の早期出動、県道・国道の見回りや倒木の処理など、多くのことができないまま日にちが過ぎました。国が対応すべきことを真っ先に挙げるのも千葉県です。千葉県にも声が届くように考えてみましょう。

9、国に望むこと

- ・温暖化対策を真剣に進めてほしい意見がありました。化石賞をもらっている場合じゃない。石炭火力発電などとんでもないことです。持続発展可能な社会の学習をしましょう。

安全・安心メール



情報を確実に受け取るために

防災に関する情報は、「防災行政無線」「防災ラジオ」でお知らせしていますが、大雨や強風等により放送内容が聞き取りにくい場合があります。

より確実に受け取るために「安全・安心メール」の登録をお願いします。

- ① 下のQRコードを読み込むか、「t-tateyama@sg-m.jp」に空メールを送信。
- ② 自動返信されるメールから登録用ホームページにアクセスし、画面の指示に従って登録してください。



安全・安心テレフォン

☎ 22 - 3001

直近に放送された防災行政無線の放送内容が電話でも確認できます。

たてやま安心電話

町内会長、独居高齢者、視覚障がい者、介護施設管理者及び防災行政無線が聞きづらい地域にお住まいの方等の希望者に対して、事前に登録した電話番号に、市が発令する「避難勧告等」の情報など、防災行政無線で放送する情報を自動音声ガイダンスでお知らせします。

申込み／社会安全課
(☎ 22 - 3442)



災害に備えて
今一度ご確認ください!

だん暖たてやま

問合せ／社会安全課
(☎ 22 - 3442)

令和2年6月号 P4 「台風や大雨から命を守るために!」

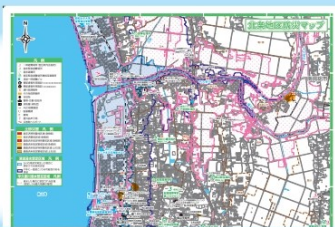
6月号 P5 「避難広報」

8月号 P2 「風水害時の避難所を変更します」

災害に備えましょう! チラシ
令和2年8月号とともに配布

防災マップ

令和2年5月号
とともに配布



あの災害から1年

館山市に甚大な被害をもたらした令和元年房総半島台風等から間もなく1年が経過します。
台風災害を振り返り、いつ起こるかかわからない自然災害に備えよう。

台風等の気象概況

令和元年房総半島台風(台風15号)

- ・令和元年9月9日午前3時前後に館山市に最接近
- ・最大瞬間風速 48.8m/s (観測史上2番目)
- ・大規模な建物被害、停電や断水、通信障害などが発生

台風19号

- ・令和元年10月12日20時前後に館山市に最接近
- ・最大瞬間風速 33.9m/s
- ・10/12 24時間雨量 133.5mm (県内4番目の雨量)

10月25日大雨被害(台風21号関連)

- ・令和元年10月25日昼前から猛烈な雨
- ・10/25 24時間雨量 207.5mm
- ・床上床下浸水、土砂崩れなどが発生

人的被害

台風15号時／死亡・行方不明者 0人
(災害関連死1人 R2.7.20現在)
台風19号及び10月25日大雨時／
死亡・行方不明者 0人
重軽傷者／14人

住家被害

- ・罹災証明書の発行数(住家のみ R2.6.16現在)
全壊: 101件 大規模半壊: 234件 半壊: 1,386件 一部損壊: 4,866件 合計: 6,587件
- ・世帯数ベースで約3割が罹災 (R1.9.1時点世帯数: 23,065世帯)
(富崎地区: 約8割、船形・西岬地区: 約5割が罹災)

罹災証明書発行状況による地区別被害状況

